

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○ その他

l . その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○ 注意力欠如、焦り等の対策について

傷病者を病院へ収容した後で気のゆるみもあるが、救急等災害事案へ出場する者（現場活動に従事する者）は、出勤指令を受けた以上、所轄署へ帰署し、帰署後の車両点検等を終わるまでは、出場活動中と心掛けていく必要がある。

○ 装備・資機材の対策について

--

○ 活動環境の対策について

消防職員として、市内だけでなく管外の交通事情（車両の高さ制限等）をできるだけ把握し、消防車両の各車両によって、車幅・車高が異なるため、職員は、各自が乗車する車両の仕様・特性等を再確認する必要がある。また、夜間長時間の運転や出勤事案が重なった場合などを考慮し、各自、健康管理には十分注意していく。

○ 指揮・情報伝達の対策について

機関員のみならず、緊急車両・公用車等へ乗車する者は、常に交通安全に努め、様々な状況をできるだけ把握し、職員間で情報として共有していく。

災害発生状況図

災害発生の状況は下図のとおりです。

